

📖 シリーズ「きょうだいの思い」⑩

高校時代①

高校で新たに出会う友達と親しくなり、お互いの家を往き来するようになった時に、無条件で家に招くことは出来なかった。

仲良くなる友達には、障害のある弟がいることを話してはいたが、中学までとは違って誰でも気軽に家に呼ぶことはなかった。

その当時、自分では意識してなかったけれど、大人になった今、あの頃の自分を見つめると、厳選された友達を家に呼んでいたように思う(笑)

障害者を毛嫌いするような友達は家に呼ぶことはしなかった。

中学～高校生活を送る中で、私がとても嫌だったことがある。友達間の会話の中で、少し言葉にどもったり、発音がおかしかったり、動作がおかしかったりすると「お前はガイジ(障害児)か!」「ショウニ(小児)みたいやん」という言葉が飛び交っていた。

中学校より高校の方が酷かった。この言葉に嫌悪感を持ちながらも、無言でその場にいることしか出来なかった。

私に障害のある弟がいることを知っている友人でも、この発言はしていた。私が嫌な気持ちで聞いているなんて、そこまで私の心の底がわかる人はいないものだな・と孤独に感じていた。

このような事とは別に、友達関係の難しさもあり、一年生の時は学校を休むことが多かった。高校は居心地が悪かった。パズルがピッタリ合うような自分の居場所ではなかった。本気で学校を退学したいと両親や周囲に話したこともある。あの頃の私は、大人になった今の私でも言葉に表現できないぐらいに複雑だった。

『多感な15才』と言えば簡単だが、この5文字に全てを背負わせられるほど軽いものではない。人間は、言葉で表すことが出来ないことや、本人にしかわからない気持ちがあるものだと、あの頃を振り返り15才の自分に教えられている。

高校生活につまづいた私だが、学校とは別に居場所があった。

パズルがピッタリ合うような居心地の良さで、ありのままの自分をさらけ出すことが出来た。

前穂通信

まええほつうしん

発行日

2012年3月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



📢 研修報告

2月27日(月) 高槻市障害学習センターにて「障害者虐待の理解と福祉事業所における虐待防止の取り組み」に参加致しました。

3時間半の有意義な内容で今後の前穂の活動に役立てたいと思います。

🌿 新しいスタッフのご紹介

スタッフ紹介